○２月２～１９日「パブリック・コメントを作成」
・「第５次たまの男女共同参画プラン」（～2/16〆切）
・「岡山県肝炎対策計画」（～2/14〆切）
・「津山市教育振興計画」（～2/14〆切）
・「岡山市廃棄物（ごみ）処理基本計画」,「岡山県第５次廃棄物処理計画」（〆切済）
・「岡山県地域防災計画」（〆切済）
　上記の６つの素案からグループで１つ選択し，パブリック・コメントを作成した。締め切りを過ぎているものもあるが,「より良い社会の実現するための視点を養い，その方策を考える過程」を大切にすることとし，パブリック・コメント作成に取り組んだ。

○１２月１５日（水）学習指導案

総合的な探究の時間　学習指導案 岡山県立岡山操山高等学校　普通科　２年各クラス 令和３年１２月１５日（水）　第７校時　各 HR 教室　　指導者　各 HR 担任	
単元	パブリック・コメントを活用したより良い社会の実現
単元設置の理由	「すべての人が身体的，精神的，社会的に幸福“Well-being”な社会の実現」を目指し，生徒一人ひとりが幅広い教養を身につけた上で，未来航路の活動を通して，自ら考え，主体的に行動し，責任をもって社会変革を実現していく力を備えたグローバル・リーダーと成長してくれることを目指して教育活動を展開する。 　行政の基本的な政策や制度を定める条例に対して，課題研究で身に付けたＳＤＧｓの視点をもって検討することで，より良い社会の実現を目指す生徒を育成する。
単元の目標	・課題研究で身に付けた知識や視点と岡山市の政策について関連づけて考えることができるようになる。 ・パブリック・コメントを作成することでより良い社会の実現について考えることができるようになる。
単元の評価基準	総合的な探究の時間の目標を踏まえた観点 「よりよく問題を解決する資質能力：「学び方，ものの考え方」「主体的創造的，共同的に取り組む態度」「自己の在り方生き方」
	主な学習活動
指導と評価の計画	第一次　　…２時間 　○パブリック・コメントについて理解する。 　○行政側（岡山市）の視点で，パブリック・コメントの在り方について考える。 第二次　　…１時間 　○ＳＤＧｓ的ものの見方・考え方を養う 第三次　　…３時間 　○岡山市が出す素案を読み，ＳＤＧｓ的な観点から，自分たちが気になったことについて話し合う。 　○素案の良い点や改善点に対して，客観的な事実を探す 　○パブリック・コメントを班ごとに発表する

事前準備	＜担任＞ ○事前に担任が無作為に８班（**４～５人**）編成し，授業開始同時に**班の座席にしておく**よう伝えておく。 ○各班，発表者を事前に決めておく。 ○classroom「21 未航_○」で配信されている jamboard「○組 必要不可欠なもの」の共有を「閲覧者」から「編集者」に変更しておく。（授業開始直前） ○授業開始前に，meet「21_２年団」，classroom「21 未航_○」で配信されている jamboard「○組 必要不可欠なもの」，未来航路係が解説する図をタブを追加してひらいておく。 ＜未来航路担当教諭＞ ○未来航路担当教諭は，各クラス jamboard「○組 必要なもの」をクラス分作成し，classroom「21 未航_○」で 15:00 の投稿予定を設定しておく。 ○世界人権宣言（こども版），ＳＤＧｓを classroom「21 未航_○」に配信しておく。 ○「第５次岡山県廃棄物処理計画」の素案を各クラスに配信しておく。 ○ワークシート１「自分が欲しいもの」（表面）・メモ欄（裏面）を用意しておく。 ○各クラスにスプレッドシート「○組 第５次岡山県廃棄物処理計画」をクラス分作成し，classroom「21 未航_○」で 15:25 の投稿予定を設定しておく。 ＜未来航路係＞ ○11 月 24 日に授業のレクチャーを受け，自分の言葉で「wants/needs/human rights」が説明できるようにしておく。
備考	学習者の経験（直接，間接，追体験など）を学習の出発点に位置づけ，進行係の問いによるふりかえりでの深まりと広がりに力点を置く。また，協働学習を重視し，各自の学習活動への参加及び協力を促し，学習集団のメンバー間の結束を強めつつ，効果的な学習により，全員が資質・能力を向上させ，創造性と実践性を高める。

１２月１５日　構想メモ
○各クラスで２５分　wants need のワークショップを実施
　不可欠なものを本部で共有できるようにして，全クラスで共有できるようにする
○オンラインでクラスを繋いで，スミさん・服部でまとめをする　（５分）
○考えどころを見つけやすいパブコメを使って，視点を探す（２０分）
　スプレッドシートで全体で共有する
○未来航路係の担当のみなさんの労をねぎらう

★この時の視点をまとめて，２月から実施のパブコメの時に，操山生の一つのコンパスをつくる

本時案（第二次の第１時）

目標	○パブリック・コメントを書くにあたって必要な「困っている人に必要なもの」を考えるための視点を育む。 ○自分の日常をきっかけとして，欲しいものと必要なものを区別し，人間に必要なものと人権，ＳＤＧｓを関連づけて考える態度を養う。

学習活動	指導・支援上の配慮事項など	評価基準・方法など
１　本時の目標を知る。	○本時の目標を担任から伝え，**授業の進行は，未来航路係が司会・進行を行う。（目標を板書しておいてもよい）** ○担任は meet「21_２年団」を接続し，（カメラ on，マイク off，レイアウトはタイル表示）にしておく。担任の chromebook を使用する。	
２　「すべての人間が人間らしく生きるために必要不可欠なもの」について考え，発表する。 ○ワークシート１（表面）に，自分が欲しいものを出来るだけたくさん書く。相談はせず，人にも見せない。（１～３分） ○書いたものの中で，必要なものベスト３を残して他には二重線をひく。人に見せても良いものだけを選ぶ。 ○班内で発表し，理由も説明する。質問してもよい。（２～３分） ○班で相談して「すべての人間が人間らしく生きるために必要不可欠なもの」を，jamboard に貼り付ける。	○ワークシート１を配布する。 ○Chromebook は班ごとの発表時のみに使用するよう指導する。 ○未来航路係が時間を計測し，３分以上超えないようにする。 ○担任は未来航路係をサポートする。 ○タブを追加し，黒板には jamboard「○組 必要不可欠なもの」を映し出す。（meet は切らなくてよい） ○未来航路係の解説の際は，chromebook で黒板に図を写して説明させる。 ○機器操作に慣れていない場合は，担任がサポートする。	○「すべての人間が人間らしく生きるために必要不可欠なもの」を，jamboard に貼り付けることができる。（他者と協働する力）
３　未来航路係から「wants/needs/human rights」についての解説を聞く。	○担任が meet の画面を黒板に映し出し，レイアウトをタイル表示からサイドバーに変更する。	○「wants/needs/human rights」の違いを理解することができる。（自他を尊重する心）
４　講師の先生（or 担当教諭）から，世界人権宣言の具体的な権利の全体像・ＳＤＧｓの目標についての話を meet で聞く。	**15:40 には講師の先生に meet つなぐ**	
５　パブリック・コメントが募集された岡山県の素案を読んでみる。スプレッドシートにコメントを記入する。	○担任が classroom に配信された素案を開くよう指示する。（meet は切らなくてよい）	○「wants/needs/human rights」の違いを理解したうえで，素案に対してコメントを記入することができる。
６　本時の振り返りをする。	○meet で本日の指導講評を講師の先生から配信する。 ★この時の視点をまとめて，２月から実施のパブコメ作成時に，操山生の一つのコンパスをつくるようにする	

○２月２～１９日　学習指導案

本時案（第三次の第１～３時）		
目標	○行政の素案を読んで，課題研究で身に付けたＳＤＧｓの視点をもって多角的に検討することができる。	
学習活動	指導・支援上の配慮事項など	評価基準・方法など
１　本活動の目標を理解する。	○本時の目標を未来航路係から伝える。 ○担任は meet「21_２年団」を接続し，（カメラ on，マイク off，レイアウトは　　タイル表示）にしておく。	
２　未来航路係から，パブリック・コメントを考えるうえで大切な視点を再度伝える。	○その後の，授業の進行は，未来航路係が司会・進行を行う。	○「wants/needs/human rights」の違いを理解することができる。（自他を尊重する心）
３　素案を読み，素案に対する感想・意見をスプレッドシートに記入する。（２５分）	○自分が気になった点について「ページ数，内容」についてスプレッドシートに記述させる。 ○素案ごとにスプレッドシートのタブを分けていることを注意するよう伝える。必ず，「何ページか」を記入するよう伝える。 ○「wants/needs/human rights」の違いを理解して記述できているか，未来航路係から確認する。	
４　素案に対する感想・意見を班で共有する。 ○発表者は，ページ数と考えた意見・感想を発表する。 ○発表者以外は発表に対する意見や感想を「コメント」を用いて記入する。 ○質問してもよい。（１０分）	○班の座席にする	○自分の考えた意見を発表することができる。（課題解決能力） ○発表者の意見に対してコメントを述べることができる。（自他を尊重する心）
より良い社会を実現するための視点を養い、その方策を考える過程を大切にする。		
５　自分たちの班がどの素案に対してパブリック・コメントを書くか決める。（１０分）	○提出〆切は過ぎているが「岡山県第５次廃棄物処理計画（素案）を選択しても可。 ○次週までに，考えた意見の根拠となる資料を探してきて，説明できるようにしておく。	
６　自分たちが考えた意見に対して，説明できる資料を探す。	○自分がコメントした素案ではない場合は，新たに気づいた点についても考えるよう伝える。 ○資料を探すなかで，さらに意見を出しても良いことを伝える。	

	本時案（第三次の第２時）	
１　前時の振り返りをする。（３分）	○未来航路係から，パブリック・コメントを考えるうえで大切な視点を再度確認する。	○「wants/needs/human rights」の違いを理解することができる。（自他を尊重する心）
２　探してきた資料をもとにパブリック・コメントを班で共有する。 ○発表者以外で２人は必ず質問をする。（１５分）	○班の座席にしておく。 ○質問に答えられなかった点について，「３　考察する」時間の中で，調べ直して，再度班で共有するようにする。	○発表者の意見に対してコメントを述べることができる。（自他を尊重する心）
３　調べてきたことから，さらにより良い社会の実現に向けたコメントを考察する。（２５分） ○資料をもとに，再度素案を読み直す。 ○各班は jamboard を活用し，再度パブリック・コメントを考え，より良い意見になるように資料をもとに論拠まで記入する。	○次週までに，考えた意見の根拠となる資料を探してきて，説明できるようにしておく。 ○次週は，実際にパブリック・コメントを書いていく活動をすることを伝える。	○探してきた資料をもとに，より良い社会の実現について考えることができる。（新たな価値を創造する力）
５　次週の活動内容を伝える。 ○自分たちが再度考えた意見に対して，説明できる資料を探す。		

	本時案（第３時）	
１　本時の目標と活動について伝える。（５分）	○担任は meet「21_２年団」を接続し，（カメラ on，マイク off，レイアウトは　　タイル表示）にしておく。 接続したままにしておく。	
２　再度考えた意見・論拠となる資料について，班で共有する。（１０分）	○パブリック・コメントを提出する際の注意点について伝える。 ・提出するかしないか選択 ・提出する場合は担任の先生のチェックを受ける ・未来航路係から説明を受けたパブリック・コメントを考えるうえで大切な視点で書けているか ・受け手側の気持ちを考えた表現になっているか ・コメントに対するエビデンスが述べられているか	○探してきた資料をもとに，より良い社会の実現について考えることができる。（新たな価値を創造する力）
３　スプレッドシートに記述したパブリック・コメントを提出してもいい状態に修正する。（１５分）		
４　パブリック・コメントを行政の提出書に基づいて記入する。（１５分）	○パブリック・コメントを提出したい班への指導	○班で意見を共有してより良い社会の実現を目指すための意見をまとめることができる。（他者と協働する力）
５　授業の振り返りをする。	**15:58 には meet で振り返り・講評**	

（４）３年生（課題研究）の取組

週２時間の未来航路Ⅲの授業目的は，１・２年生の未来航路Ⅰ・Ⅱにおいてグループで行ってきた課題研究を，個人の取組としてさらに深化させ，大学での学びへつなげることである。

大学での学問と接続させるために，論理性とエビデンスを重視し，課題設定と調査・分析を指導した。具体的には，３年生における「未来航路Ⅲ」課題研究の選択者を対象に，進路希望の学部・学科に関連した学問領域を意識しながら，課題研究をより学術的に客観的データの収集・分析・表現，内容の論理的展開に重点を置いて指導した。

青少年のボランティア参加率向上のためのパーソナルメディア活用法に関してリサーチクエスチョンを設定し，メディアを利用したボランティア活動の動機付けに関する効果的な手段について研究をスタートさせた。国内外の先進的な取り組みを調査研究し，ＳＮＳマーケティングの理論をもとに分析・考察を行った。最終的には「若者のボランティア参加促進のためのＳＮＳ利用」というタイトルでＳＮＳを利用したボランティア活動の動機付けに関する効果的な手段についてまとめた。研究成果を論文に仕上げるとともに校内課題研究発表会でプレゼンテーションを行った。

〇活動内容

＜研究タイトル＞

・「若者のボランティア参加促進のためのＳＮＳ利用」

＜スケジュール＞

４月：研究タイトルと研究目的，方法を確認

・キーワードマッピングで課題を整理して研究テーマを決めた。

・先行研究・事例（「CiNii」「Google Scholar」）から研究テーマに関する理解と知識を深めた。

・本研究で明らかにする具体的なリサーチクエスチョンを設定した。

・リサーチクエスチョンの「答え」となる「仮説」を立てた。

５～９月：他の文献等を参考にしながらデータ収集

・仮タイトルを設定し，研究をスタートした。

・文献を中心に調査を行った。

・ボランティア団体からの聞き取り調査を行った。

・データから新たな問いを立て，さらに考察を行った。

・タイトルを修正して研究を進めた。

・ＳＮＳマーケティングについて書籍で独習した。

１０～１２月：論文作成，校内発表

・調査結果に対して仮説との整合性を考察した。

・研究論文にまとめた。

・校内課題研究発表会でプレゼンテーションを行った。

（５）成果と課題

（ア）１年生

１月に行った「６つの資質・能力に関するアンケート」では，「幅広く深い教養」「新たな価値を創造する力」の２つの項目において，４月実施のアンケート以降それぞれ０．２ポイントの上昇が見られた。特に，「世界の多様な文化や価値観に対する理解」，「新たな課題設定，課題解決のビジョンの明確化」の項目において，顕著な上昇が見られた。これは前期に行った課題研究リテラシー「ラーメンで世界進出」の取組みで，日本以外の世界各国の状況と各国が抱える課題について ICT 端末を利用して十分調べる機会があったこと，実際に海外に進出した企業の方から，自身の体験談を交えた具体的な講義が聞けたことが，生徒の意識変化につながったと考えられる。また，後期のグループ課題研究において，現代社会が抱える諸問題について各自で調べた上で新たな課題を発見し，それらについてグループで協議したのち大学教授からアドバイスをいただけたことが，よりよい課題設定につながったと考えられる。

一方で，多くの活動が班活動だったにもかかわらず，「主体的に行動する力」「他者と協働する力」の２つの項目において，年度当初より変化が見られなかった。次年度の課題としては以下が挙げられる。

①Chromebook の功罪

一斉活動や対面でのコミュニケーションが制限される環境で ICT 端末は非常に便利なツールではあるが，端末から得られる情報だけに頼ってしまう危険性もある。課題研究においては，生徒が積極的に図書館を利用したり，自分たちの研究テーマに関連した取り組みを行っている大学・企業を訪問したりする等，ICT 端末だけに頼らない方法を考えていく必要がある。

②生徒のコミュニケーション能力の育成

入学して間もない中での班活動だったため，後期のグループ課題研究では他クラスの生徒とうまく関われない生徒が見られた。また，同じ空間にいながら他者とコミュニケーションを取ろうとしなかったり，各自が課題研究の時間中ずっと端末を操作して終わったりすることもあった。課題研究を開始する時期も含めて検討したい。

③教員と生徒の目標共有の難しさ

１年生２学期から約１年間かけてのグループ課題研究になるため，メリハリをつけた指導が必要である。課題研究の意義，指導手順，ノウハウを教員で共有し，ゴールのイメージを生徒と共有することで，グループ課題研究活動の充実と研究内容を深化につながると考える。

（イ）２年生

〇課題研究

１．オンラインによる取り組み

オンライン実施については，いくつか課題が残った。１つ目は，本校は Google meet を使用しているため，特に ZOOM アプリを用いた時に機器の操作や接続がうまくいかなかった時の対応に戸惑った。また，この時期は ZOOM の時間制限がなかったため２時間連続の授業でも使用可能だったが，現時点では接続時間に制限があるので，再接続する必要がある。生徒にとっては，Google スライドの画面を見て説明することになるので，プレゼンテーションの練習としては不十分だったように感じる。また，画面越しのため大学の先生にも質問しにくかったという声もあった。

２．外部機関との連携における成果と課題

外部機関との連携については，昨年度が２７件だったことに対して，今年度は１１件であった。その要因としては，右の「他機関との連携申し込み書」を作成する手間があることが１つ挙げられる。申請書に書くことで，研究目的に沿ったアンケートかどうかをしっかり考えさせるために，今年度から導入した。研究対象として不適当なアンケート調査を減らすことはできたが，これを書く手間から連携が減ったと考える。２つ目の要因としては，１１件中２件がアドバイザーの大学の先生からの紹介だったが，９件は自分たちで企業を調べての連携となった。生徒主体の取り組みが望ましいが，連携するためのきっかけ作りの時間が２年生になってからも必要であった。３つ目の要因としては，SDGs 目標番号１７の概念が定着していないことが挙げられる。（目標番号１７「パートナーシップで目標を達成しよう」）　社会課題は，世界全体で包括的に解決することが求められている。世界の社会課題の全体像を把握し，個人レベルでなく，学校や企業，大学，NPO 等，諸機関が連携する重要性を生徒に理解させることが必要である。

他機関との連携申し込み　　申し込み日　　年　月　日

SDGs目標番号	班	担当教員	
班長　年 組	副班長　年 組		年 組
年 組	年 組		年 組
機関名			
住所			
連絡先	TEL	FAX	
機関代表者			
希望日時	第１希望	年　月　日（　）　：　～　：	
	第２希望	年　月　日（　）　：　～　：	
	第３希望	年　月　日（　）　：　～　：	
代表生徒	年　組　番　名前		
研究テーマ			
研究内容			
連携内容・理由			
備考			

３．課題研究発表会の時期

１月２６日に課題研究発表会が実施予定だったが，新型コロナウイルス感染症の感染拡大により３月１７，１８日に実施延期となった。昨年度も感染が１月に拡大したこと，長時間にわたって寒い中で全体会の発表を聞くことを考えると，１月の実施よりも３月実施の方が望ましいと考える。２年生の未来航路の年間計画を見直す必要がある。

○パブリック・コメント

１．パブリック・コメント実施日程

11/16	課題研究まとめ，パブコメ	11/24	パブコメ①講演会（鷲見香織さん）
12/1	第４回学力テスト	12/8	パブコメ②講演会（岡山市）
12/15	パブコメ③ＨＲ	12/22	ポスター作成・スライド修正・発表準備
1/12	ポスター作成・スライド修正・発表準備	1/19	ポスター作成・スライド修正・発表準備
1/26	課題研究発表会	2/2	パブコメ④
2/9	パブコメ⑤	2/16	パブコメ⑥

「課題研究発表会」とその準備期間を設定したため，１２月１５日から１ヶ月半ほど時間が空いたなかでの取り組みとなった。また，２月にパブリック・コメントを書いていく計画であったが，岡山市・岡山県ともにパブリック・コメントを募集している素案が少なかった。岡山県が募集するパブリック・コメントの実施時期の傾向としては，例年１１～１２月中旬に案件が集中しているので，次年度以降は実施日程を見直すことも考えていきたい。また，パブリック・コメントの募集については，逐一岡山県や岡山市等のＨＰを係が確認をしなければならないので，その都度生徒への素案の下ろし方について考えなければならないので授業計画を立てる難しさがあった。

２．外部連携

今年度の最も大きな成果は，外部の方と連携して授業を作ることができたことである。１１月２４日講師に来ていただいた鷲見さんと未来航路係の有志がパブリック・コメントの在り方等について話す座談会を企画すると５名の生徒が参加した。１２月１５日の放課後に設けた座談会では，パートナーシップ制度や今後の授業の進め方について意見を交わし，社会課題について積極的に考える生徒の姿が見られた。

１２月８日の講演会に向けては，８月から岡山市広報公聴課の方と打ち合わせを行った。その中で授業で伸ばしたい生徒の資質について等，意見交換を行いながら進めることができた。また，パブリック・コメントに興味を持った生徒がプレパブコメと題して，「岡山市パートナーシップ制度」の素案を読み事前に提出した意見書に対して，岡山市の担当課から直接回答をいただくことができた。

１２月１５日の授業については，ＫＳＢと山陽新聞の取材を受けた。「岡山県第５次廃棄物処理計画」（素案）に対してパブリック・コメントを作成しているというニュースを見て，岡山県環境文化部循環型社会推進課の方に関心をもっていただいた。この授業ではパブリック・コメントを書く練習だったため県に提出する予定はなかったが，参考にしたいということで生徒の書いたコメントを学校でまとめて送った。パブリック・コメントについては，２月４日に岡山県のＨＰで公開されているが，生徒が書いた意見に対して直接行政側から感想をいただく機会をもうけることができた。コロナ禍のためオンラインで，代表生徒（未来航路係）が循環型社会推進課の方３名にインタビューするという形態で実施し，２月９日の未来航路の時間に全体に配信した。

○６つの資質・能力アンケートから

設問	設問内容	R2.6	R3.3	R4.1
３	世界における日本の立場や役割を理解している。	2.6	2.4	2.8
７	課題を解決するための知識や技能を有している。	2.5	2.3	2.8
９	論理的に課題の解決策を考え，評価・検証を行うことができる。	2.7	2.6	2.9
１４	自分やグループの意見を論理的に説明することができる。	2.8	2.8	3.0
１５	課題解決に向けて明確なビジョンを示すことができる。	2.7	2.6	2.9

３１項目のうち，特に変容があったものが上記についてである。「未来航路」の目的として，２年生では「世界や社会の諸問題を知る」ことをテーマとして，世の中はどうなっているのか，自分はどのように関わることが出来るのかを課題研究を通して学び，６つの資質・能力を身につけ，社会で活躍できる人材を目指す活動を年間通じて意識して取り組むこととした。SDGs をもとに世界の諸課題について考え，２年間で大学の先生に対して３回，「領域別発表会」「課題研究発表会」とあわせて計５回の研究発表を行うことや，論文をまとめていく過程を通じて，上記の項目の資質・能力が向上したと考えることができる。

（ウ）３年生

２年生の段階で想定していた研究活動が，コロナ禍の影響で実施できなくなり，３年生になってから変更を余儀なくされたが，社会情勢を踏まえながら研究テーマを検討し，将来の学びに直結したリサーチクエスチョンを設定することができた。

選択者が１名であったため，生徒同士でディスカッションする活動はできなかった。個人研究とはいえ，生徒同士で切磋琢磨し，高めあうことができることが望ましい。

課題研究で得られた知見を，今後，どのように自らの行動につなげて，自分の目標を達成していくかが重要である。